

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT
2020
Summer

悠々と北極圏をゆく

第二特集

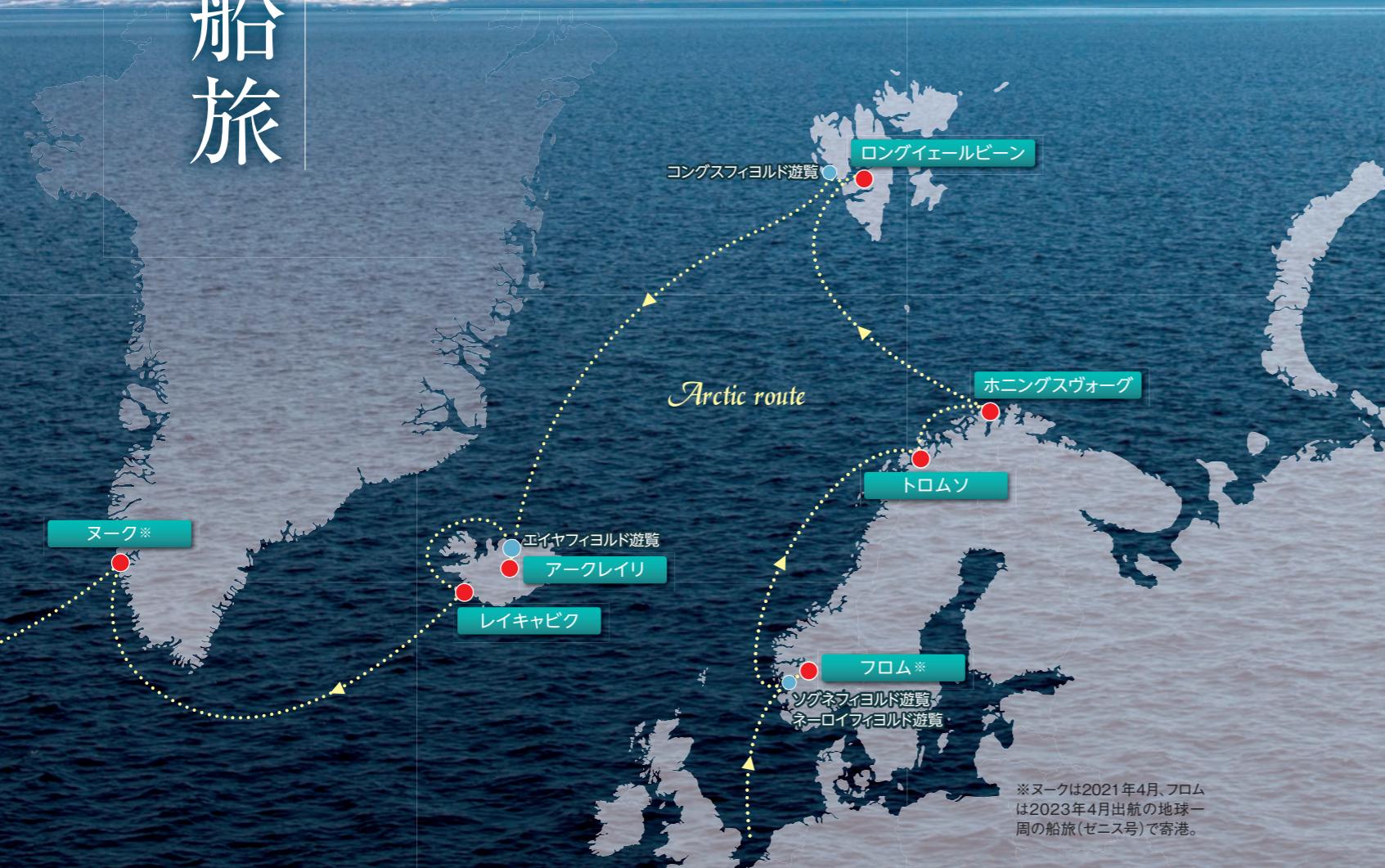
世界をまわるクルーズの醍醐味
～船から望む、心に留めたい景観～

[発行] (株)ジャパングレイス

北極圏航路で巡る船旅

極北の大自然との出会い

北極圏には厳しくも美しい大自然とその環境下で育まれてきた暮らし、文化がある。氷河の侵食によってできたフィヨルドの入り組んだ地形、切り立つ山々、迫る断崖によって自然の荘厳さを実感する。太陽が沈まない白夜では極北の神秘と不思議を体験できる。そしてこの地域ならではの野生動物との出会いからは生命のたくましさを感じるだろう。ピースボートクルーズでは船上からの素晴らしい風景とともに、人気の高いノルウェーのフロムやトロムソ、世界最北の町ロングイェールビーン、巨大間欠泉を体感できるアイスランドのレイキャビクなど、魅力的な寄港地での観光も堪能できる。



※ヌークは2021年4月、フロムは2023年4月出航の地球一周の船旅(ゼニス号)で寄港。

CONTENTS

特集

極北の大自然との出会い

北極圏航路で 巡る船旅

ピースボート史上初の

北極圏クルーズへ

年間数十万人の観光客が訪れる町【フロム】

北極圏最大の町【トロムソ】

ヨーロッパ大陸最北の町【ホニングスヴォーグ】

北の秘境に広がる雄大な自然【ロングイェールビーン】

歴史が古く見どころが多い【アークレイ】

両岸の丘陵、山並みに目を奪われる【エイヤフィヨルド】

街歩きも自然も楽しめる【レイキャビク】

グリーンランドの歴史ある首都【ヌーク】

青と白の絶景、地球最後の秘境、南極へ。

第二特集

世界をまわるクルーズの醍醐味

～船から望む、心に留めたい景観～

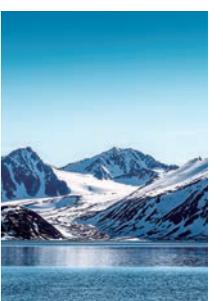
参加者インタビュー

ピースボート災害支援センター

ピースボートを広く発信
「オンライン勉強会」

被爆75年、世界に原爆の実相を伝える
「オンライン被爆証言会」

表紙の写真
一年を通して島の大部分が雪と氷に覆われているグリーンランドは手つかずの大自然が残る





Arctic Circle

ピースボート史上初の 北極圏クルーズへ

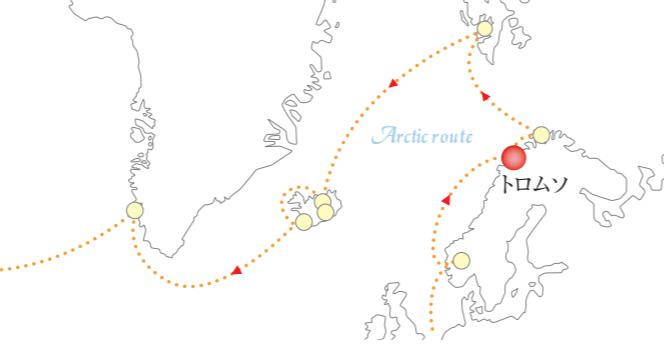
北極、と聞いて思い浮かぶのはどのようなイメージだろう。地球の最果て、極寒の地という言葉が出てくるのだろうか。実は北極圏は多くの人を惹き付ける観光スポットでもある。春から秋にかけて、特に夏季がクルーズのベストシーズン。この地ならではの大自然や野生動物との出会いを求めて、毎年多くの観光客が訪れる。2021年4月、ピースボートクルーズも初めて北極圏の船旅に出る。

北極圏とは、地球の一番上にある北極点（緯度90度）を中心に、北緯66度33分の緯線までのエリアを指す。その面積は約1400平方キロメートルと広大。北極圏のほとんどが海で、夏季以外は凍結している。氷と雪に囲まれた、厳しい環境を想像しがちだが、スカンジナビア半島に住むサーミ人、狩猟を糧に暮らしているグリーンランドのイヌイット（カラーリット）は先住民として古くからこの地に根をおろしている。ヨーロッパ人は紀元前には北極圏に足を踏み入れていたという記録も残っているが、北極探検がボビュラーになったのは20世紀に入つてから。日本人では、かの植村直己さんが1978年に世界初の北極点犬ぞり単独行を成功させている。

現在、北極海の沿岸には、アメリカ、ロシア、カナダ、デンマーク（グリーンランド）、ノルウェーの5カ国があり、これにスウェーデン、フィンランド、アイスランドを加えた8カ国を「北極圏国」という。そこにはおよそ400万人が暮らし、各町では自然と共生した独自の文化が育まれている。北極圏の観光における最大の魅力は、壮大な自然だろう。数万年の歳月が生んだフィヨルド、険しい山々。夏季に青々と茂る草木。青空にきらめく流水。また北極海はプランクトンが豊富なため多くの野生動物、海鳥との出会いも新鮮な感動をもたらしてくれる。



1:夏季は太陽が沈まない「白夜」を体験できる。2・3:セイウチやホッキョクグマは北極圏に生息する動物だが、実際に巡り合える可能性は極めて低い貴重な存在。4:雄の枝角は大きいものでは1.2メートルの長さにも達するというトナカイ。



北極圏最大の町

トロムソ Tromsø/Norway

トロムソはノルウェー北部の文化の中心地。「北のパリ」と呼ばれるほど、美しい町並みでも知られる。トロムソダーレン教会、トロムソ聖堂など見どころ多く、世界最北のビール工場でつくられるビールも人気。

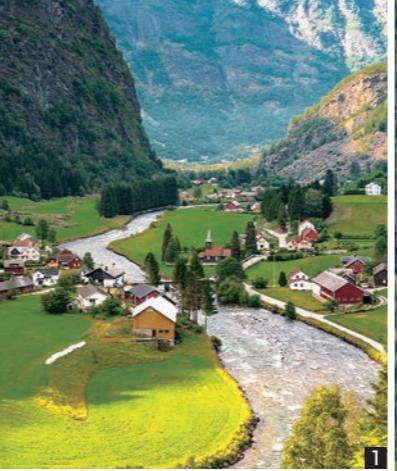


1:ノルウェーのフィヨルドで獲れる「ホッカアカエビ」。サラダやスープが美味。2:国民食ともいえる「ブルノストチーズ」。キャラメルに近い味わい。

トロムソは島の町。夏には太陽が沈まない白夜があり、フィヨルドツアーやホエールウォッチングなどで知られている。島の周りを取り囲む海は美しいと言。「ストールショタイン山」へケーブルカーで登ると、町全体とフィヨルドを一望できる。ノルウェー本土とを結ぶ「トロムソ橋」も目に入ってくるが、この橋は歩いて渡ることができ、橋からの景色もビューポイントだ。橋を渡った本土側に観光名所の「トロムソダーレン教会(北極教会)」がある。オーロラと冬をコンセプトにしたモダンなデザインで夜はライトアップされる。



トロムソのシンボル的なトロムソダーレン教会。



1: フロム渓谷沿いの牧歌的な村。2: 650メートルの高さからパノラマの絶景を堪能できる「ステーガスタイン展望台」。3: 観光客の人気が高いフロム鉄道のトロッカ車両。



Flåm/Norway

夏季は山や町に草木が青々と生え、より美しい景観を見せる。

フロムはノルウェー最大のスケールを誇るソグネフィヨルドに面しており、観光拠点として人口わずか500人の町に、年間数十万人もの観光客が訪れる。大きな山々とフィヨルドに囲まれた景観はため息が出るほど素晴らしい。車窓からの美しい景色で有名なのがフロム鉄道。フロム駅の隣にある「フロム鉄道博物館」では写真パネルや車両など豊富な展示物を通して、この山岳鉄道がどのように建設されたか、背景や歴史を学ぶこともできる。

休憩にはノルウェーを代表するクラフトビール「エーゲル・ブリッゲリー」の醸造所を見学がてら、美味しい一杯を楽しむのもいい。こちらもシーズンによっては行列ができるほどの人気だ。もう一つフロムで見逃せないのが「ステーガスタイン展望台」。海拔650メートルにあり、山腹から30メートル突き出ているため、絶景を見渡すことができる。

また町から4キロほど離れた山の中腹にある「オツテルネス農場」は1600年代の古民家がたくさん残る風情ある観光スポットだ。

年間数十万人の観光客が訪れる町

フロム Flåm/Norway

ノルウェー5大フィヨルドの一つ「ソグネフィヨルド」や世界で最も美しい景観が望める鉄道といわれる「フロム鉄道」などで知られるフロム。緑の濃い山々とフィヨルドに囲まれた美しい町だ。



ヨーロッパ大陸最北の町

ホニングスヴォーグ Honningsvåg/Norway

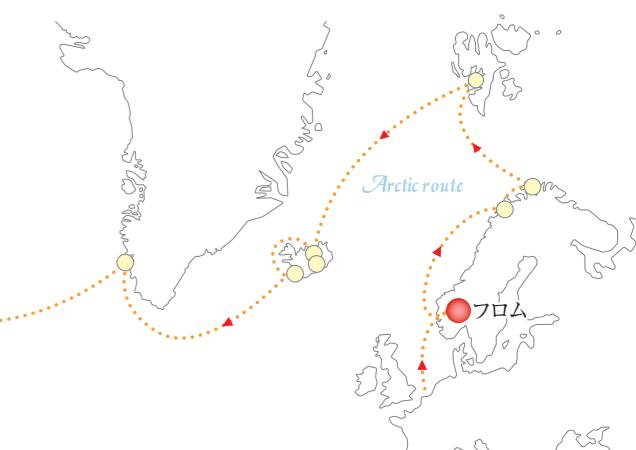
ホニングスヴォーグはクルーズ船の寄港地として知られ、こじんまりとした町のため歩いて散策ができる。有名な「ノールカップ」へはバスで約1時間。北極点まで約2100キロの位置に近づける。

ノルウェー最北端の町。第二次世界大戦で焦土になり、復興した町はモダンな建物が建ち並びお洒落な雰囲気が漂う。北緯71度に位置するが、暖流の影響で海は凍らず、主な産業は漁業で港はいつも活気に満ちている。夏季には2000ものクルーズ船が寄港する。欧州大陸最北とされる観光名所「ノールカップ」には、大きな地球儀のようなモニュメントが建ち、観光客で賑わう。展示室、郵便局、バーなどを備えた「ノールカップ・ホール」はお土産も購入できる。このほか観光案内所にある「ノールカップ博物館」、戦火を逃れた「ホニングスヴォーグ教会」などが見どころ。



本場ノルウェーの新鮮なサーモンのマリネ。

薄切りのパンに魚貝類やチーズ、野菜などをのせた北欧風オープンサンド「スマーブロー」。



Honningsvåg/Norway

マゲロイ島にあるヨーロッパ最北の岬「ノールカップ」。



1:町にはカラフルな装いの家が建ち並ぶ。
2:炭鉱で栄えた頃がしのばれる石炭を運搬したケーブルカー。
3:スヴァールバル諸島唯一の、世界最北の教会。



肉汁がジューシーなミートボールにクリームソースをかけた「ヒョットカーケ」。

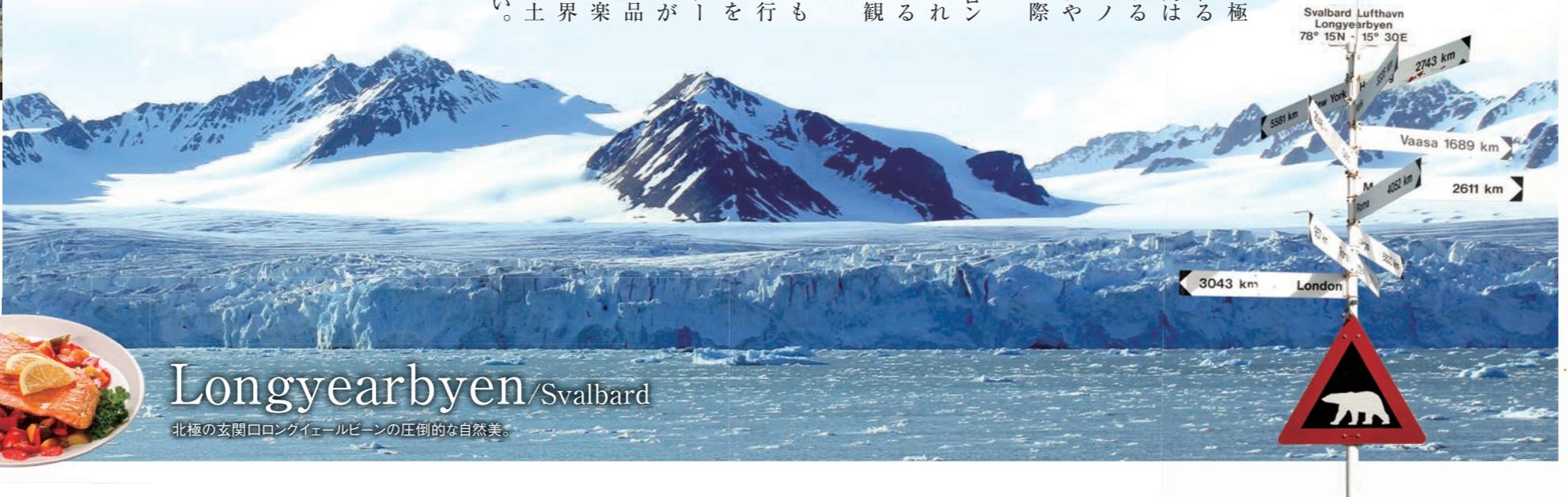
ノルウェー料理の定番、サーモンのグリル。



1:町にはカラフルな装いの家が建ち並ぶ。
2:炭鉱で栄えた頃がしのばれる石炭を運搬したケーブルカー。
3:スヴァールバル諸島唯一の、世界最北の教会。

北緯78度に位置するロングイエールビーンは、スヴァールバル諸島にある。豊富な石炭の鉱脈があつたことから1990年頃までは炭鉱の町として栄えた歴史があるが、今日では観光を中心とした地質学、生物学、物理学など極地研究に関わる人々が多く訪れる。またスヴァールバル諸島はスヴァールバル条約に加盟している国々の國民なら永住できるため、ノルウェー以外のヨーロッパ、ロシアやアジアからも居住者がいる、国際色豊かな町でもある。

観光のメインは雄大な自然。ロングイエールビーン川の河口に出れば北極海とその向こうに連なる雪山が望める。夏季には海鳥の観察、カヤックや釣りを楽しむ人々もいる。「スヴァールバル博物館」に行けば北極圏の生活や文化、歴史を学ぶことができる。町のメインロードにはレストランや雑貨店などが並び、極地ならではの珍しい製品も多くウインドウショッピングも楽しめる。また、品揃え豊富な世界最北のスーパー「マーケット」でお土産を買ってみるのもおもしろい。



Longyearbyen/Svalbard

北極の玄関口ロングイエールビーンの圧倒的な自然美。



Eyja Fjord/Iceland

長いフィヨルドの両サイドに雄大な自然の景色が続く。

両岸の丘陵、山並みに目を奪われる

—[エイヤフィヨルド]— Eyja Fjord/Iceland

アイスランドの中北部で最長のフィヨルド。「島のある峡湾」を意味し、湾口から60キロの奥行きがあるが、先端部に向かって狭まる谷状になっている。



アイスランドの名物、シブルにグリルしたロブスター。

1:町のシンボルともいえる「アーカレイリ教会」。2:町で見られるアーカレイリの名物「ハート形の信号」。

Akureyri/Iceland

雪解けの時期は滝の水量が増えて圧巻の迫力をみせる「ゴーザフォス」。

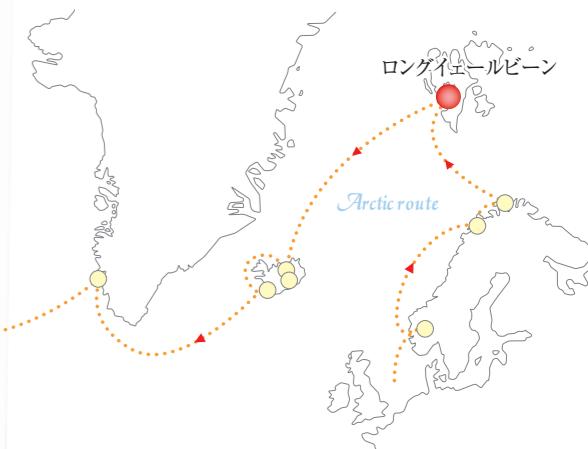


「ゴーザフォス」はアイスランド北部を代表する観光名所の一つで、古来信仰された多神教の像を滝に投げ込み、キリスト教へ改宗したところから「神々の滝」と呼ばれている。「ミーヴァトン湖」はアイスランドで4番目に大きな湖で、周辺に多くの溶岩形成物を見ることができる。気候の良い夏の時期は「リストアイガルズリン公園」の植物園もおすすめ。町の中心部の丘には「アーカレイ教会」があり、景色も素晴らしい。クレイリ博物館では伝統的な漁業、羊飼いの用具類が展示され、「フリーズビヤルナルフース」ではアイスランドの禁酒令にまつわる品々が展示されている。

北の秘境に広がる雄大な自然

—[ロングイエールビーン]— Longyearbyen/Svalbard

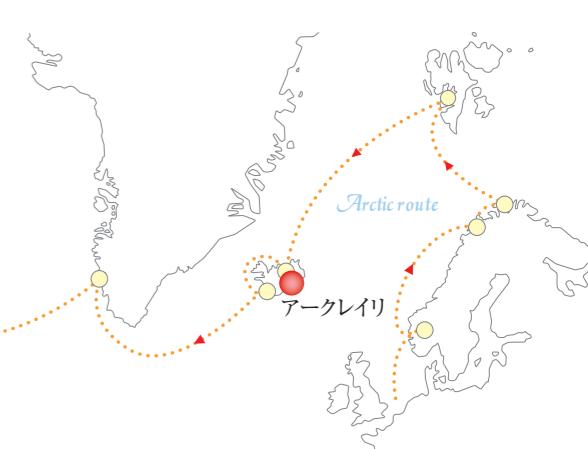
人口2000人、ホッキョクグマ3000頭が住むといわれる、人口1000人以上が住む町としては、世界最北の町。極寒のイメージがあるが暖流の影響で同緯度と比べると気候は穏やか。夏季は平均7度になる。極地の観光を楽しもう。



歴史が古く見どころが多い

—[アーカレイリ]— Akureyri/Iceland

アーカレイリは、アイスランドの北部、エイヤフィヨルドに臨む町。フィヨルドの最深部に位置する天然の良港である。歴史も古く、美しい町として知られ、夏季は観光客が訪れる賑わいをみせる。



エイヤフィヨルドは、細長く遠浅なのが特徴で、湾の中央にある「フリース島」という島は「エイヤフィヨルドの真珠」ともいわれている。フィヨルドの両サイドは、丘陵や山地が連なり、パノラマチックな光景が広がる。標高1000メートルほどの中、その悠然とした山並みは見惚れるほど美しい。このフィヨルドは、豊かな酪農地帯になつておらず、低地に広がる緑も目にまぶしい。

青と白の絶景、 地球最後の秘境、南極へ。

氷雪に覆われた大地、氷山の自然美、そして澄みきった空気。地球最後の秘境といわれる南極には感動の絶景が広がり、たくましく生きる野生動物の姿が見られる。フランスのクルーズ会社ポナンが所有するエレガントなル・ボレアル号に乗船し、ラグジュアリーな船上生活と冒険心に満ちた13日間の旅へ。

ポナン ル・ボレアル号でゆく 南極半島13日間

2021年2月2日(火)～2月14日(日)



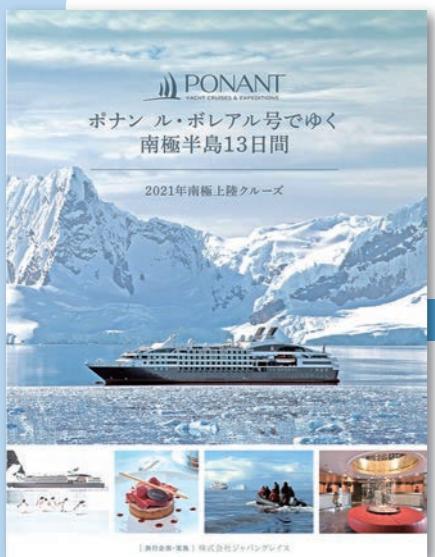
地球で最も美しい湾と称されるパラダイスベイ訪問をはじめ、ディックボートでの遊覧、捕鯨基地訪問、アザラシやペンギン観察などプラン満載のクルーズ。

お申し込み受付中

右記QRコードより詳しいパンフレットをご覧いただけます。



お問い合わせ・資料のご請求は——
TEL.0120-95-3740まで



町の丘に建つランドマーク「ハットルグリムス教会」は美しい外観が印象的で、塔の上まで登ると町を一望できる。チョルトニン湖へ向かうと、周辺には市庁舎や議事堂があり、のんびりと散策が楽しめる。町の建物全体がカラフルに彩られているのも特徴だ。博物館の「セトルメント・エキシビション」では9世紀頃の遺跡も展示されている。メインストリートの「ロイガヴェーグル」はブティックやレストランなどでにぎわう古い通りで、休憩や買い物をする

のに最適だ。郊外へ足を伸ばすと、世界最大級の露天風呂として有名な「ブルーラグーン」があり、最近では事前予約制となっている。また海嶺を地上で観察できることで知られる世界遺産の「シングヴェトリル国立公園」をはじめとする数多くの魅力的な観光スポットでは、美しい自然、文化遺産を堪能できる。

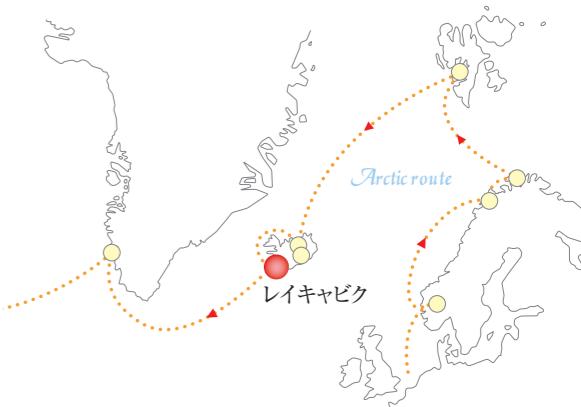
「大陸の裂け目」を見学できる「シングヴェトリル国立公園」。

街歩きも 自然も楽しめる

【レイキャビク】

Reykjavik/Iceland

アイスランドの首都であるレイキャビク、人口は12万人。歴史の古い町で、歩いて回れるほどだが、街中には観光スポットもいくつかある。また郊外には雄大な自然が広がり観光客を楽しませてくれる。



デンマーク領グリーンランドにおける最も大きな町。とはいっても人口は17000人ほどで、観光スポットはほぼ徒歩で回ることができる。まずは「グリーンランド博物館」で入植者の歴史、文化を知るところからはじめるはどうだろう。「ヌークアートミュージアム」に行けばイヌイットの文化についても学ぶことができる。世界最小の聖堂「ヌークカテドラル」はコンパクトだが可愛らしいデザインが印象的。北極圏らしい大自然を求めるなら、町郊外をハイキングしてみたり、小高い丘に登ってヌークの町全体やグリーンランドらしい美しい景色を望むのもよいだろう。

一方、現代のヌークにふれるのであれば「カトウアツク文化センター」で音楽やアートに親しんだり、「ヌークセンター」でウインドウショッピングも楽しめる。ハーバー周辺を散策すれば流行のカルチャーシーンをはじめ「ヌークの今」を肌で感じることができるだろう。

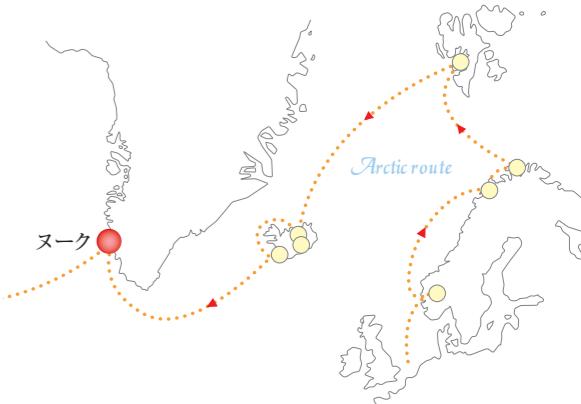
デンマークの影響を受けたカラフルな建物が建ち並ぶヌークの町。

グリーンランドの歴史ある首都

【ヌーク】

Nuuk/Greenland

紀元前2000年には既に人が住んでいたといわれ、現地のカラーリット(グリーンランド・イヌイット)語で、「半島」を意味するヌーク。この地に刻まれてきた歴史と自治政府の首都として発展した文化が融合してつくられた町だ。





Wonderful Cruising Viewpoints

世界をまわるクルーズの醍醐味

～船から望む、心に留めたい景観～

世界一周のクルーズでは寄港地での観光も思い出になるが、船旅ならではの船上から望む景色も素晴らしい。船が進む度に変化していく景観に感動しながら、その瞬間をずっと胸にしまっておくために心のシャッターをきつてほしい。

スエズ運河
Suez Canal



パタゴニアフィヨルド
Patagonian Fjords



パナマ運河
Panama Canal



ソグネフィヨルド
Sognefjord



セントローレンス川
St. Lawrence River



セーヌ川
Seine River



地中海と紅海を結ぶ全長約190キロ、深さ24メートルの世界三大運河の一つ。1869年の完成以後、世界の海運を支えてきた歴史を感じさせる運河。運河通過には10数時間要し、周囲に高い建物がないため両サイドに広がる砂漠、その向こうには地平線も望めるパノラマを楽しみたい。日本のODAによってつくられたムバラク平和大橋も見どころの一つだ。

パタゴニア地域は南米最南端に位置し、南極へも近い。このエリアにある世界有数のパタゴニアフィヨルドを遊覧する。ターコイズの石のように青く輝くロマンチエ氷河は数万年におよぶ地球の営みを感じさせてくれ、雪化粧した山々が輝いている。クライマックスは、フィヨルド一番の絶景と呼ばれる、巨大なビオ11世氷河。壮大な自然に圧倒される。

パナマ地峡に設けられた大西洋と太平洋とを結ぶ運河。26メートルの高低差を、水の浮力を利用して階段式で超える方式が有名だ。船が閘門(こうもん)に入ると門が閉まり、水が大量に注入され船が徐々に上昇し、26メートル登り、太平洋へ漕ぎ出す。ガトゥン湖を通過し、3つの閘門、出口付近のアメリカ橋をくぐり、ゆっくりとパナマ運河通航を堪能できる。

ノルウェー語でフィヨルドは「入り江」という意味。氷河による浸食作用で形成された複雑な地形、美しい景観が特徴だ。切り立つ断崖、1000メートル超の山々、流れ落ちる滝。雄大な自然の山麓では絵本から出てきたような家が並んでいる。枝分かれしたフィヨルドを進んでいくと、フロムという険しい山あいの村が現れ、濃い緑に心洗われる。

北大西洋からセントローレンス湾に入ると、セントローレンス川の河口が見えてくる。秋深い時期、凜とした空気に包まれ、川幅が徐々に狭くなっていくと岸からそびえ立つ山々が迫り、山肌を埋めつくす鮮やかな紅葉に目を奪われる。穏やかな流れを蛇行しながら、船上からは刻々と変化する美しい景色を堪能できる。運が良いとベルーガ(シロイルカ)に会えることも。

全長約780キロにも及ぶセーヌ川。河口から約6時間かけて寄港地ルーアンまで進む。絵画のような風光明媚な景色のなか、リバーカルーズを楽しむ。印象派ゆかりの地や魅力的な建造物、そして酪農地帯の豊かな自然も目前に広がる。夕暮れときは川面に木々が影を落とし幻想的な景色が現れる。客船での航行は、大海原の航海とは趣の異なる贅沢なひとときだ。



私は世界の広さと近さをダイレクトに感じて、非常に感銘を受けた船旅でしたから、それを伝えたいと思いました。今はジャパングレイス主催の、那覇で行われる説明会がおよそ2ヶ月に1度あって、そこで体験を話していく、会いに行ったり、集まつたりして楽しんでいるんですよ。

帰国後はアンバサダーとしても活動されているそうですね。

クルーズは一人での参加だったそうですが、その点はいかがでしたか。

私は4人部屋で参加しましたが、同室の3人の方とともに仲良くなりました。その中に沖縄で仕事をされた方がいてすぐに打ち解け、ほかの方も皆気が合いました。同じ目的で船旅に参加しているのでいろいろ共通の話題もありますしね。今も連絡を取り合って、会いに行ったり、集まつたりして楽しんでいるんですよ。

クルーズ参加検討者からは細かい質問もありますか。

私は世界の広さと近さを船旅のゆつたりとした魅力、スタッフのきめ細かいサポート、そして普通の観光旅行では体験できないさまざまな学習とイベントが素晴らしい。そこに参加する皆さんでつくりあげていく船旅、それがこそがピースボートだと思います。非日常のなかで自分を見つめ直し、視野を広げて海外の人たちと交流をしてきた体験をアピールしています。



ええ、ありますね。印象に残った寄港地や船内での過ごし方のほか、各種企画や講座の内容から私自身の感想、持ち物や服装、携帯電話やカメラ、お小遣いの金額やカードの支払いなど具体的な情報をお伝えしています。

ます。ピースボートクルーズは、船旅のゆつたりとした魅力、スタッフのきめ細かいサポート、そして普通の観光旅行では体験できないさまざまな学習とイベントが素晴らしい。そこに参加する皆さんでつくりあげていく船旅、それがこそがピースボートだと思います。非日常のなかで自分を見つめ直し、視野を広げて海外の人たちと交流をしてきた体験をアピールしています。

ご自身も来年4月出航のクルーズにお申し込みになっていますね。

はい。第95回クルーズの感動と興奮冷めやらぬのに、なぜすぐに参加を決めたのか。当初はしばらく間をおいてもいいのではと思つていましたが、アンバサダーとしてお話しして、説明会に参加された皆さんのお顔を見ていると、一緒にクルーズを体験して多くの感動湧いてきたのです。皆さんをブッシュしているつもりでしたが、結局私自身をブッシュしていたんですね。意志あるところに道あります。前回と重なる寄港地もありますが、未体験の北欧などがあり期待が高まります。また次回は寄港地で、より積極的に各地を回り、多くの方と交流を深めたいとも思っています。

最後にこれから乗船される皆さんにメッセージをお願いします。

まだ先のクルーズとはいえ、コロナ禍で不安になる方もいらっしゃると思います。でも逆にそんな時代だからこそ、コロナが収束した後の楽しみや目標をもつていると、毎日に張りが出てくると思います。私自身がそうですが、来年のクルーズ乗船に向けて気持ちちは明るく保っています。コロナを乗り越えた先に世界一周が待つている。それはとても素敵なことですよ。



アンバサダーが語る

ピースボート クルーズ体験

アウシュヴィッツ強制収容所への関心から、最初のピースボートクルーズに参加した與那覇強さん。「船内で学び、交流し、旅を皆でつくっていくクルーズ」の素晴らしさに感銘を受けて、2021年春出航クルーズへの参加を申し込んでいる與那覇さんに話を伺った。

ピースボートクルーズ アンバサダー
與那覇 強さん（沖縄県在住）



ピースボートクルーズは第95回クルーズに乗船。下船後は、那覇で行われる説明会で自身の体験を紹介している。「世界の近さと広さがダイレクトに感じられる船旅の魅力を伝えたいと思っています」。

20代の時に読んだアウシュヴィッツに関する本が強烈に印象に残つて、いつか慰霊の旅ができるチャンスがあれば行きたいと思っていました。ピースボートの第95回クルーズで、そういう航路を見つけてオプショナルツアーで訪ねることができると知ったので参加しました。

ピースボートクルーズへ乗船したきっかけを教えてください。

収容所で亡くなつた方々の心中を察し、胸がつぶれる思いでした。自由を渴望し、死の恐怖と戦い過酷な環境に絶望し、といった、ここで犠牲になつた人々の追体験をしようと思つました。想像を絶するものでした。ただ慰霊できたことは本当に良かったです。

世界一周でどんなことが印象に残っていますか。

船はゆっくり進むと思っていましたが、すぐに最初の寄港地に到着し、こんなにも外国は近いのかと思いました。また、アジア圏を抜けてスエズ運河を渡つたとき、砂漠の風景も印象に残っていますが、ここからヨーロッパに入つていくんだという胸の高まりを感じましたね。

行った先々すべてが思い出として残つてます。古代文明発祥の地ギリシャや近づいたときの興奮は今でも鮮明に覚えています。アテネ市内でさまざまな場所を巡りましたが、事前に船内で世界遺産に関する講座を受け、観光地の映像も見ていきましたから興味深く見学できました。寄港地の歴史、文化などに対してもあらかじめ情報があれば、違つて方が可能になり、細かいところにも目が届いてより充実した時間になりますね。

訪れた国の思い出深いところはどこですか。



コロナ禍において 熊本県球磨村で 被災地支援始まる



2020年7月豪雨の被災地へ PBV活動報告

7月に九州を襲った豪雨は各地で甚大な被害をもたらした。しかしコロナ禍において県外からの専門家、災害支援団体、ボランティアが現地入りできず、復旧作業の遅れ、避難生活の長期化などが心配される。

近年日本では毎年大きな自然灾害が発生している。コロナ禍の今年、自然災害発生は最も懸念されていたことだったが、7月に九州で豪雨被害が起きてしまった。災害支援の在り方も、コロナ禍のなかで初めての取り組みを強いつらっている。被害の大きい熊本県でも、感染拡大を防ぐために県をまたいでボランティアの被災地入りが難しく、現地のボランティア、支援団体が復旧作業に尽力しているが、人手不足は否めない。2018年の西日本豪雨の被災地となつた岡山県倉敷市では、休日には約2000人のボランティアが支援に入ったが、今回の熊本は200

人から300人と約10分の1の規模でしかない。甚大な被害に対して復旧作業の遅れ、避難生活の長期化などが心配される。

PBVも通常なら災害発生から2週間後には支援先にスタッフが常駐し、ボランティアとともに活動を展開するが、それがままならない。PBV理事の小林深吾さんは「同時に、災害時にはPBVのような災害支援のエキスパートが現地に多く入り、復旧に必要なノウハウを地元の方々に伝える役割も果たしますが、現在はそれもできない状況になっています」と言う。



2018年7月の西日本豪雨災害支援

現地入りできないPBVが行つてきたのは間接支援である。豪雨被害発生後から、2017年の九州北部豪雨や2016年の熊本地震などにおいて災害支援を通してつながりをもつた、熊本、大分、福岡の現地のパートナー団体と連絡を取り合ってきた。そして災害支援ネットワークを通じて集まつているコロナ感染予防のためのサージカルマスクやアルコール消毒液、炊き出しに必要な食材、タープテント、テント、清掃に必要な高圧洗浄機、発電機、電動工具などの資機材を必要に応じて現地へ届けている。

もどかしさを抱えつつも、できることに取り組んできたPBVだったが、支援はようやく次のステップに進むことになった。このたび行政からの支援

要請を受けて、熊本県球磨村へのスタッフ派遣が決定したのだ。地元の団体と協力して、球磨村の避難所運営のサポートを担う。8月の第四週と五週に、2チームに分かれてスタッフが現地入りした。事前に対策を計画してきた「新型コロナウイルス影響下における災害支援ガイドライン」に基づいて活動していく。特に大きなテーマは被

災者支援と感染予防の両立である。避難所では3密を避けた生活の仕方、衛生管理など今までとはまったく違う取り組み、様式が求められる。

「PBV自身も手探りの部分もありますが、これまでの豊富な災害支援経験を活かし、今回の支援活動が民間支援のひとつとなるならば、と思っています。感染予防をしながら被災者

の皆さん的生活を再建するにはどのような支援のカタチがあるか、そのお手本をつくりたいと考えています」と小林さんは語る。

現地でのサポート期間は未定だが、被災者の方の生活再建、仮設住宅建設などを考えると短くても秋までは続くことになるだろう。現地での活動についてまた報告を待ちたい。



豪雨で被災した大分県へ、今まで関わりのあるパートナー団体と連携を取りながら、備品支援以外にも資機材などの貸し出しの支援を行っている。



2016年4月の熊本地震災害支援



2017年7月の九州北部豪雨災害支援



2019年10月の台風19号災害支援



PBV ピースボート
災害支援センター

[オフィシャルサイト] <https://pbv.or.jp/>

2020年7月豪雨災害 新型コロナウイルス×被災地緊急支援募金

ピースボート災害支援センター(PBV)では、コロナ禍でも被災地に支援を届けるために、緊急支援募金を実施しています。皆さまのご支援、ご協力をお願い致します。



被爆75年、 世界に原爆の実相を伝える 「オンライン被爆証言会」

被爆75年という節目の今年、世界に向けて被爆者の声を届けるために、世界各地を結んだ「オンライン被爆証言会」を開催。若者層を中心に多くの参加者を得て、核廃絶に向けた新しい発信、連携の在り方がみえた取り組みとなつた。

広島・長崎に原爆が投下されて今年で75年を迎える。四半世紀を一区切りとすると、次の100年目には「被爆1世の声」は聞けなくなっているだろう。ピースボートは核兵器廃絶国際キャンペーン（I C A N）の国際運営団体として、被爆75年を大切に考え、今年にフォーカスした行事の開催を構想してきた。しかしこロナ禍により人が集まることができなくなり、船旅による活動もかなわなくなつた。原爆が人々に、世の中に何をもたらすのか、被爆者の声を世界へ届けたい。それがピースボートの使命である。そこで考えたのが「オンライン被爆証言会」であった。

ICANの広島・長崎75年キヤンヘーンを通して広報したこともあり、毎回世界各地から多くの参加者を得た。

サーロー節子さんは、ICANの一員として、核兵器禁止条約に焦点をあて、若い人の力を合わせて発効に向け尽力し、核兵器のない世界をつくる重要性を説いた。山下泰昭さんは、差別と後遺症に苦しみメキシコへ移住し温かく迎えられたが、被爆者として長く抱えてきた辛い心の内を話した。森田隆さんは、軍国少年だったゆえの人間性を失つてしまふ戦争の恐ろしさ、被爆者への差別を現地の高校生へ証言していると語った。李鐘根さんは在日



経験のある世界各地の被爆者の方々に講演を依頼。7月中に毎週一人ずつ1時間半にわたり、計4回の証言会を企画した。証言者として登場いたいたのはサーロー節子さん（トロント）、山下泰昭さん（メキシコ）、森田隆さん（サンパウロ）、李鐘根さん（広島）で、7カ国語の通訳を設定。40分前後の

かで生きてきた苦しみ、被爆者は日本人だけではないことも伝えてくれた。質疑応答ではアメリカの大学生、フランスの若者、南米の日系人、日本の被爆者などから活発な質問、意見が交わされて非常に有意義なひとときとなつた。運営スタッフも「新しい連携の可能 性を示した証言会になりました。37年間培ってきた国際ネットワークを活かし、新しいツール、手法を活用して核兵器廃絶に向けて世界をつなげていきた」と今後への手応えをつかんだようだ。



Online Study Sessions



ピースポートを広く発信、 「オンライン勉強会」

ピースポートでは、これまで毎週ピースポートセンターで世界を知るための「イベント」を開催してきた。それをコロナ禍においても継続するため、4月から「オンライン勉強会」として実施している。その内容をご紹介。



ピースボートは「みんなが主役で船を出す」を合い言葉に、世界の国や地域の人々と交流し、「ひとりが地球市民として平和の文化を築くことを目指している。またそのために必要な「出会いの場」、「学ぶ場」、「行動していく場」をさまざまなかたちで提供している。

ピースボートのイベントはこれまで「学ぶ場」として東京のピースボートセンターで開催されてきた。コロナ禍において、センターでの開催はできなくなつたが、その活動を止めではないというスタッフの強い思いにより4月から「オンライン勉強会」が実施されている。

現在「ピースボートの顔」と「世界を学ぼう」という2つのテーマで交互に開催。前者はピースボートのスタッフに焦点をあて、普段取り組んでいるプロジェクトやクルーズでのさまざまな経験を

紹介している。後者は環境、平和、保健など毎月テーマを変え、専門家を招いて話していくだけスタイルをとっている。担当スタッフによると「毎回多くの方に参加いただき、クルーズ未体験の方にも多くご参加いただいています」とのこと。また参加後のアンケートでは「オンラインでいろいろ学べてありがたい」「スタッフの登場により、色々なキャリアの方がいることがわかつて楽しい」といった声も寄せられている。

オンライン勉強会は4月以降延べ1700名以上の方が参加しており、引き続き開催を予定している。今回の試みを通して「海外から参加している方もいて、東京にこだわらずにピースボートのことを広く発信し、知つてもらえるツールとして活用を考えていきたい」と新たな展開の可能性も見えてきた。



船上百景 [ウェルカムセレモニー]



初対面の人ともすっかり打ち解けて盛り上がる。「一緒に旅を楽しみましょう!」



船長から次々とクルーが紹介される。



社交ダンスパーティーも行われ優雅にステップを踏む。

よつゝこそ、世界一周の船旅へ。
旅の前途を祝して

世界一周の旅のはじまりとともに、恒例の船長主催「ウェルカムセレモニー」が開催される。華やかな雰囲気のなか、ドレスアップをした乗客が集まつてくる。船長からクルーの紹介があり、スタッフキヤプテン、チーフエンジニア、セキュリティオフィサー…と次々に多彩な役割が呼ばれ、船旅を支えるクルーの多さを実感。続いて専属バンドによる歓迎の生演奏が披露され、会場はいつそう盛り上がりをみせる。

船長との記念撮影には列がつくられ、握手をしたりお話ししたり、大人気のコーナーに。ダンスフロアでは社交ダンスパーティーも開かれ、初心者の方も経験者にリードしてもらひ楽しむ姿が見られる。お待ちかねのディナータイムでは、初対面の方ともテーブルを囲み、皆で「乾杯!」。美味しい料理を楽しみながら、会話が弾み、船旅への期待がいつそう高まっていく。

今号でお話いただいたクルーズアンバサダーの與那覇さんからの最後のメッセージ。「コロナを乗り越えた先に世界一周が待つていて」これは、これから乗船される方々だけではなく、私たちスタッフにとつても希望の合言葉だと思、新たな船出の準備のため日々励んでまいります。(N.I)

編後記

2020年夏——開催され
たならばオリンピックの話題で持ち切り
だつたであろう今夏。同時に、戦後75周
年を迎える鎮魂の夏でもありました。オ
リンピックといえば、1932年ロサンゼ
ルス大会の馬術競技で西竹」という日本
人選手が金メダルをとっています。それは
現在に至るまで同競技で日本が獲得し
た唯一のメダルだとか。西はその後、ロサン
ゼルス名誉市民の称号も得ますが、すぐ
に戦争の足音が聞こえます。騎馬か
ら戦車へ時代が移り、西も戦車連隊長と
して最前線。そして75年前の1945年、硫黄島にて戦死。満42歳没。

人類は世界中を巻き込んだ戦争とい
う愚かな行為をする」ともあれば、オリ
ンピックといふ世界規模の平和の祭典を
行う」ともできる。いずれも人間の行う
人為です。どちらを選択するかいでい
ば、現在のような困難な時代においても
絶望ではなく希望を持てるような社会
であり続けたい。